

公園整備

国営沖縄記念公園は、昭和50年度に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念し、その跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」と、沖縄の復帰を記念する事業の一環として、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」からなり、それぞれと称しています。

海洋博公園

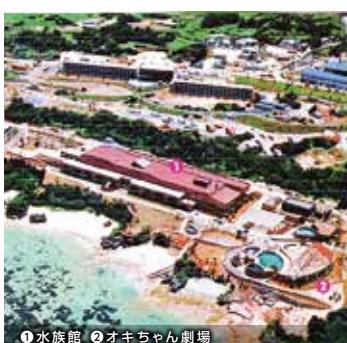
海洋博公園は、昭和51年度に、旧水族館、旧オキちゃん劇場、海洋文化館、夕陽の広場、エメラルドビーチなどの海洋博覧会時の政府出展施設を主体に約36haの供用を開始。以降、ちびっこことりで、おきなわ郷土村、熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、マナティー館、ウミガメ館、イルカラグーン、沖縄美ら海水族館、新オキちゃん劇場などを供用し、現在の供用面積は71.8haとなっています。年間入園者は平成18(31)年度(口ナ前)において3百万人以上を継続し、平成30年には累計1億人を達成しています。



①海洋文化館 ②沖縄館 ③三菱海洋未来館
④日立グループ海洋図書館 ⑦北ゲート
海洋博覧会時(昭和50年)
※現在の中央ゲート付近



現在の中央ゲート(平成30年)
(中央右:ハイサイープラザ)



①水族館 ②オキちゃん劇場
海洋博覧会時(昭和50年)
※現在のオーシャニックゾーン付近



現在のオーシャニックゾーン(平成28年)
(中央左からイルカラグーン、新オキちゃん劇場)

海洋博公園の主な経緯

年 度	内 容
昭和50	「沖縄国際海洋博覧会記念公園設置について」閣議決定される。
50	7.20 沖縄国際海洋博覧会 開幕
51	1.18 沖縄国際海洋博覧会 閉幕
51	7.1 海洋博覧会記念公園事務所発足
51	8.1 国営沖縄海洋博覧会記念公園開園(供用面積36ha)
55	おきなわ郷土村・おもろ植物園・東駐車場開園(供用面積48ha)
60	熱帯ドリームセンター開園(供用面積60ha)
61	海洋博覧会記念公園事務所から国営沖縄記念公園事務所へ名称変更
平成2	熱帯・亜熱帯都市緑化植物園開園(供用面積69ha)
6	マナティー館、ウミガメ館オープン
14	新水族館(沖縄美ら海水族館)開館
22	オキちゃん劇場リニューアルオープン
25	海洋文化館映像ホールリニューアルオープン
29	海洋博公園年間入園者数500万人超えを達成
30	入園者1億人達成(海洋博覧会地区のみ)
令和元	沖縄美ら海水族館入館者5,000万人達成
4	沖縄文化・センターゾーン リニューアルオープン



平成7年頃 左下:エキスポランド、中央左:旧水族館、中央右:旧オキちゃん劇場



平成19年頃 中央:新水族館、中央右:旧水族館
右上:旧オキちゃん劇場、イルカラグーン

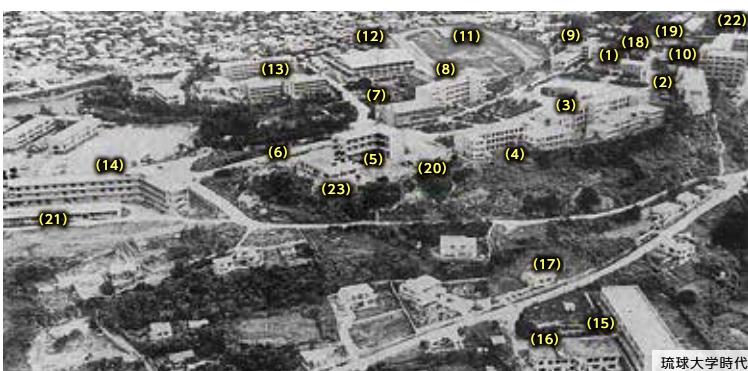
首里城公園(平成の復元)

年 度	内 容
昭和61	首里城跡地約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備することが閣議決定される。
平成元	首里城正殿建築工事の起工式及び木曳式を実施
4	11.3 首里城公園供用開始(約1.7ha)
12	7.22 九州・沖縄サミットの社交夕食会が行われた。
19	書院・鎖之間供用、庭園供用(平成20年度)
25	黄金御殿・寄満・近習館所、奥書院供用。奥書院庭園供用(平成26年度)
30	入園者数6,000万人達成
30	H31.2.1 国営沖縄記念公園首里城地区 全エリア開園(約4.7ha)
令和元	首里城正殿等焼失(10.31)

首里城公園の主な経緯

昭和25年に戦後焼失した首里城跡地に琉球大学(米国民政府立)が創設され、昭和52年の琉球大学の移転開始等をきっかけに、昭和61年に首里城を国営公園として整備することが閣議決定されました。平成4年11月に首里城正殿等を含む主要建物を一部開園し、以降も整備を進め、平成31年2月に全ての国営公園区域(4.7ha)を開園

- 沖縄総合事務局50年のあゆみ
- 1) 大学本館
 - 2) 工芸ビル
 - 3) 文系ビル
 - 4) 教育ビル
 - 5) 土木工芸ビル
 - 6) 仮学生会館
 - 7) 図書館
 - 8) 理系ビル
 - 9) 農学ビル
 - 10) 診療所
 - 11) 運動場
 - 12) 体育館
 - 13) 男子寮
 - 14) 機械電気工学ビル
 - 15) 女子寮
 - 16) 女子寮食堂
 - 17) 家庭管理実習室
 - 18) 施設課
 - 19) 水タンク
 - 20) 旧放送局
 - 21) 機械実習室
 - 22) 新農学ビル
 - 23) 職員センター



社会資本の整備について

公園整備

